

「全鍍連」 2021年 9月号 理事長のよこがお

茨城県鍍金工業組合 理事長 鹿志村 高道 (有カシムラ工業所 代表取締役)

「我が町 日立」



この度、茨城県鍍金工業組合の理事長職を拝命いたしました鹿志村高道と申します。

前理事長の溝口様におかれましては、22年間にわたり我々組合を支えていただき感謝申し上げます。これからは私なりに粛々と理事長職を努めさせていただきたいと思っておりますのでよろしく御願いたします。

さて、今回は私が生まれ育った日立市についてご紹介させていただきたいと思っております。日立といえば皆様総合電機メーカーの(株)日立製作所の発祥地ということをご存じだと思います。その(株)日立製作所ですが、小平浪平氏が1910年(明治43年)に創業いたしました。

その小平氏は現在のJX金属の創業者の久原房之介氏が設立した日立鉱山時代に日立鉱山の初代工作課長として発電所建設に活躍し、その後国内初の電動機を製作し修理工場を発展させて電気機械製作事業などを展開いたしました。そして1920年(大正9年)に久原鉱業から独立して従業員2700人規模の(株)日立製作所として法人化いたしました。

またその久原房之助氏は「日産コンツェルン」形成の基盤も築き上げたといわれております。

戦時中は、日立の工場は軍事工場として生産をしてきたためにアメリカ軍の爆撃等により市内の約7割が灰となってしまいました。戦後は鉱工業を中心に発展を遂げることとなりました。そのために東北地方を中心に多くの若者が日本鉱業、日立製作所に働きに来ました。

その結果1983年(昭和58年)には人口が20万6千人程になり何年間に渡り茨城県内で1番の人口を維持してきました。

しかしその後1981年(昭和56年)の日立鉱山の閉山に始まり、バブル後、リーマンショック後の日立製作所の再編により全国でも上位に位置する人口減少に見舞われ現在では17万人程になってしまいました。

このように日立の町はいろいろな顔を持ちながら、変遷を重ねてきましたが60年以上日立に住んでいる私にとってとても住みやすい町であると思っております。

夏は涼しく冬は温暖であると共に特に最近の異常気象でも災害が少ないと感じております。また日立には1948年(昭和23年)日立の復興の象徴ともいえるかみね公園の整備も行われ太平洋が見える動物園とレジャーランドを併設したかみね公園には近隣の県や、市町村の幼稚園などの遠足に多くの子供たちが来園しております。海水浴場も6カ所ござ

いまして、それぞれが最も水質の良い「AA」の評価をいただいております。このように山と美しい海岸線に囲まれ自然豊かな土地ですのでこれからも環境問題を最重要点と考えいつまでも住みよい日立の町を作るべく地域と密着した活動をしていきたいと思っております。